

社会の変化や生徒の多様化に対応した 学校・学科構成等の在り方検討資料

- 1. 学校の在り方について
 - 1-1 中高一貫教育について
 - 1-2 多部制定時制課程について
 - 2. 学科の在り方について
 - 2-1 総合学科について
 - 2-2 特色ある学科について
- <参考> 学科別入学定員

平成21年2月
宮城県教育庁教育企画室

1 学校の在り方について

1-1 中高一貫教育校の今後の在り方について

次期構想における中高一貫教育校の整備はどうあるべきか。

○中高一貫教育校のねらい

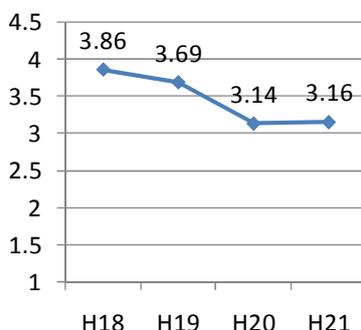
従来の中学校・高等学校の制度に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すもの。

○中高一貫教育校の現状

＜中高一貫教育校の設置状況＞

設置年度	地区	学校名	学科	課程	設置形態	学級規模	学校の特色等
							①設置形態 ②学校の特色
平成15年	東部(本吉)	志津川高校	普・専	全日制	連携型	4学級	①既設の4中学校と既設の高等学校の連携 ②基礎学力の向上 (中高教員の相互乗り入れ授業、サマーチャレンジテストや共通到達度テストの実施、6年間のシラバス、つなぎ教材等) ・個性の伸長(進路ノートの活用、就業体験活動等) ・社会性の育成(中高合同の部活動や学校行事・地域清掃活動等)
平成17年	北部(大崎)	古川黎明高校	普	全日制	併設型	6学級 (2学級)	①既設の高等学校に新設の県立中学校を併設 ②6年間一貫した効果的カリキュラムで、少人数指導、45分7時間授業、特色ある教科、黎明土曜塾等による創造力の高い確かな学力の育成 ・キャリア教育、総合学習、きめ細かな進路指導による自主・自立の精神の育成 ・黎明田畑、異文化交流、ボランティア活動等による共生の心の涵養
平成21年	中部(北)	市立仙台青陵中等教育学校	普	全日制	中等教育学校	4学級	
平成22年	中部(南)	仙台二華高校	普	全日制	併設型	6学級 (2学級)	

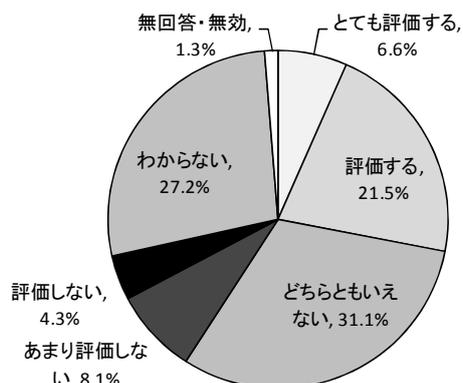
＜古川黎明中学校の出願倍率の推移＞



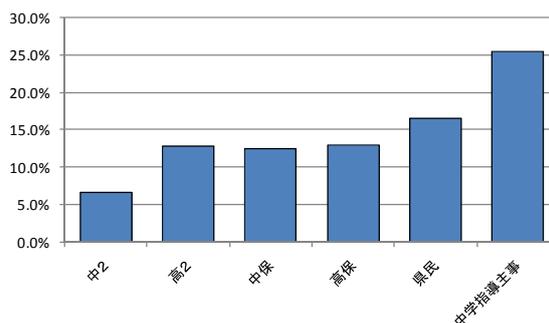
○中高一貫教育校に対する評価（「高校教育に関する県民意識調査」結果より）

＜中高一貫教育校の設置に対する評価＞

(調査対象全体)



＜調査対象別の「評価しない」・「あまり評価しない」の割合」の比較＞



<各評価の選択理由>

<「とても評価する」・「評価する」>

生徒 保護者 県民	高校への受験がなく、6年間を通して自分のペースで学習をするのはいいと思うから。 時間がたってから深く理解できる事もあるので一貫性を持った方がよい。 進学のひとつの選択肢として増えた点では良いと思う。 中学のうちから一貫性を持った特色ある教育をうけることがむずかしいため各地区に普及を希望。
中学 指導主事	受験競争が緩和され、ゆとりをもって諸活動にあたることができるから。 さらに石巻、仙南、登米・栗原地区にも設置すべき。 中高6年間を見通し、計画的、継続的に授業を展開できるので。 6年間というスパンは、幅広く奥深い教育の可能性を感じる。

<「どちらともいえない」>

生徒 保護者 県民	6年間同じ環境において勉強できるのもいいが、同じ人だけとしかつながりが生まれないのもいや。 高校と中学の連携的な学習が望める反面、受験競争が前倒しされた感もいめないため。 中学校から高校が決まっているのでは、途中で選択肢が少なくなってしまうから。
中学 指導主事	この年齢期の特性から見て、長いスパンでの取組は良いことばかりではないと思う。 まだ成果が出ていないので。

<「あまり評価しない」・「評価しない」>

生徒 保護者 県民	中学から高校に上がるときに受験勉強をする必要がなく、学力に差がつくことが予想できるから。 入学できる人数が限られているため、結局は優秀な子しか入れない。進学校なら意味がない。 中学受験をあおるような気がする。 6年間というのは小学校同様に長すぎて中だるみしやすいと思うため。同じ学校で友人が増えない。
中学 指導主事	学力中心型になっているところが疑問。 中学から高校の段階で、進路選択の機会を設けることも大切だと思う。 一貫教育のメリットが十分機能しているようには思えない。 進学率が悪いとの圧力により、合格のみを考えた駆け足カリキュラムを作りやすいようにしたものだ。

○中高一貫教育校の課題

<p><前回審議会における中高一貫教育校にかかる意見></p> <p>○中高一貫については古川黎明中について倍率が高いことや、仙台市の青陵中に対する保護者の関心高かったが、いずれの学校も、国公立大への進学率に数値目標を掲げるなど進学に力点を入れている。(佐藤委員)</p> <p>○首都圏の私学の中高一貫校の教育課程のように高校2年(中等5年)までに中高の内容を終わらせ、最後の1年で大学受験に特化した学習をするような進学校化する可能性がある。(菅野委員)</p> <p>○高校入試に際して中学校が抱えていた評価の統一性の問題が、小学校に降りてきているということで、小学校の先生たちに関しては厳しい状況に直面している。(菅野委員)</p> <p>○高校受験などの負担が少ないことで部活動等において成果が見られる。(公平委員)</p> <p><参考>「全国高等学校教育改革研究協議会」資料より中高一貫教育校の学校運営上の課題を抜粋</p> <p>①併設型の中高一貫校では、中高一貫したカリキュラムを受けた内進生と外進生(高校入学者)の授業進度に差があることから、高校から入学した生徒への未履修分野の補講クラス分けなどの工夫が必要。また、こうした進度の差を嫌って高校の倍率が低下するケースも見られる。</p> <p>②連携型の学校においては受験がないことから中学3年から高校1年にかけての学力維持に工夫を要する状況が生じている。逆に受験終了後の開放感によるモチベーションの低下を防ぐ事ができる。</p> <p>③6年間での学力差の拡大一学年が上がるにつれて、学校内での生徒間の学力差が顕著になる傾向がある。</p>

1-2 多部制定時制課程の今後の在り方について

次期構想における多部制定時制課程の整備はどうあるべきか。

○多部制定時制課程の設置のねらい

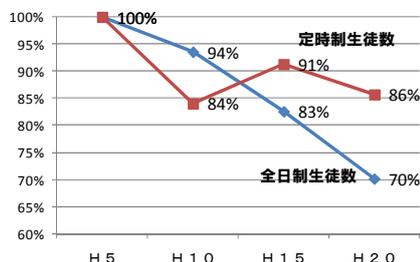
定時制については、従来からの勤労青少年に加えて、全日制課程からの転・編入学、過去に高校教育を受けることができなかった方など多様な入学動機や学習歴を持つ方が増えてきている。これに伴い履修体系の多様化・弾力化が求められてきた。単位制高等学校教育規程第6条では定時制課程の単位制高校においては、多様な科目を開設し、昼夜開講制など複数の時間帯(=多部制)において授業を実施するよう努めることとされている。

○多部制定時制高校の現状

<多部制定時制高校の設置状況>

設置年度	地区	学校名	学科	課程	設置形態	学級規模	学校の特色等
平成2年	中部(北)	貞山高校	普	定時制	昼夜間定時	4学級	2学期制 昼・夜の2部制、昼夜併修時間の設定、併修課程での履修、大学入学資格検定、通信制との併修、技能審査制度等による単位の認定「手話」、「郷土研究」等の科目を開設
平成17年	東部(石巻)	東松島高校	普	定時制	3部制	3学級	生徒の多様な進路希望に対応できる教科・科目の配置、基礎的基本的学力の定着部をこえた選択科目の受講、芸術科目、福祉科目の充実・民間活力の導入 講座の一般開放 自己表現能力を伸張する学校設定科目の設定・自己表現A・B (言語による表現、身体による表現、音楽による表現、美術による表現、工芸による表現)
平成20年	北部(大崎)	田尻さくら高校	普	定時制	2部制	3学級	普通科目のほか、情報、商業、福祉、本校独自の学校設定科目を含め、多様な選択科目を設置。 関係科目の系統的・重点的な履修による上級学校への進学を実現 授業は、少人数指導を中心に行い基礎・基本を重視。(英語基礎や数学セミナー等の学校設定科目)
平成21年 予定	中部(南)	市立仙台大志	普	定時制	2部制	6学級	

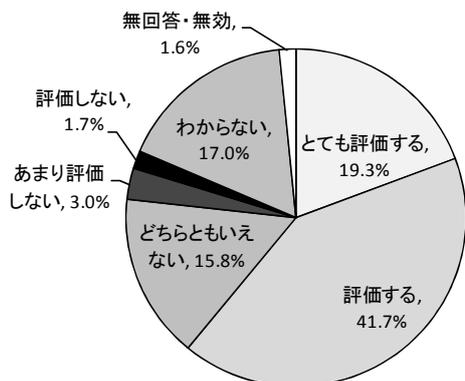
<H5年を100とした定時制高校生徒数>



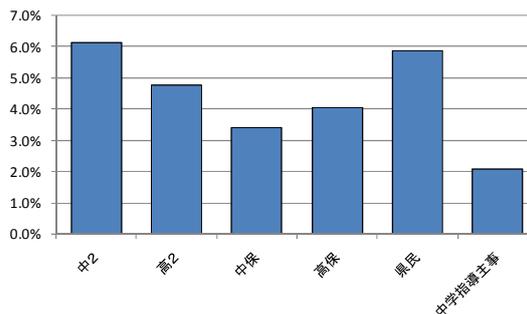
○多部制定時制高校に対する評価(「高校教育に関する県民意識調査」結果より)

<多部制定時制高校の設置に対する評価>

(調査対象全体)



<調査対象別の「評価しない」・「あまり評価しない」の割合>の比較>



<各評価の選択理由>

<「とても評価する」・「評価する」>

生徒 保護者 県民	事情があって高校に通えない人が、高校に通える可能性が広がると思うから。 パイトの許可があったり、授業料が安く定時制を選ぶ方もいますので メンタル的な理由の生徒など、チャンスがあれば3年で卒業できるのは良いことだと思う。
中学 指導主事	選択能力のある生徒にとっては大変有意義である。 増加している不登校生徒等にとって、選択の幅が広がるから。 経済的、家庭的に厳しい状況の生徒や、不登校等であつづいた生徒にも対応したシステムとして評価する。

<「どちらともいえない」>

生徒 保護者 県民	私の周囲を見ていると小中学校で不登校になってしまった生徒やいわゆる不良と呼ばれる生徒の逃げ道になっている気がします。(選べるシステムは評価しますが) 自分の希望する時間帯を選べる点はよいが、みんなのコミュニケーションがとりにくい点もある
中学 指導主事	不登校傾向の生徒の受け皿として評価するが、本来の働きながら学ぶ人のための定時制という仕組みが崩れてしまうのではないか。 自分で生活をコントロールできる生徒には勧めたいが、そうでない生徒には不向きである。

<「あまり評価しない」・「評価しない」>

生徒 保護者 県民	本当に学びたいけど学べない経済事情等があるのなら分かるが、そうでない子が多そう。 定時制は不要 金銭的な問題なら奨学金等で対処すればよい 全日制の進学を目指さない単位制高校が宮城県にはほとんどないために仕方なく定時制課程を選択している
中学 指導主事	時代のニーズと言えばそれまでだが、基本的な生活習慣をつけるという意味では甘やかしにつながると思う。

○多部制定時制高校の課題

<p>■定時制高校の現状</p> <p>①勤労学生以外の入学者割合の増加</p> <p>②学力や生活リズム・集団活動などに課題のある生徒や全日生高校から転入学する生徒の受け皿ともなっている。</p> <p>③多部制定時制高校では科目選択の自由度が大きく、生徒の自己責任の自覚や個性の発揮を促しながら各種の課題を抱えた生徒へのフォローアップや学びなおしの機会を提供する場となっている。</p> <p>④多部制定時制高校では、日中の3年間の就学で卒業が可能であり、卒業後3～4割が大学・専門学校等に進学しているなど、全日制課程との差異が縮小しつつある。</p> <p>⑤中間部または夜間部のみ定時制県立高校の出願倍率は0.36～0.70倍(H20年度)と大きく募集定員を下回っているが、多部制定時制高校では0.96～1.23倍(同)となっている。</p> <p>■定時制高校の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日制単位制高校と多部制定時制高校との役割分担の明確化とその適正な対応 ・昼間または夜間定時制高校の的確な需要把握に基づく適正な対応

1 学科の在り方について

2-1 総合学科の今後の在り方について

次期構想における総合学科の整備はどうあるべきか。

○総合学科創設のねらい

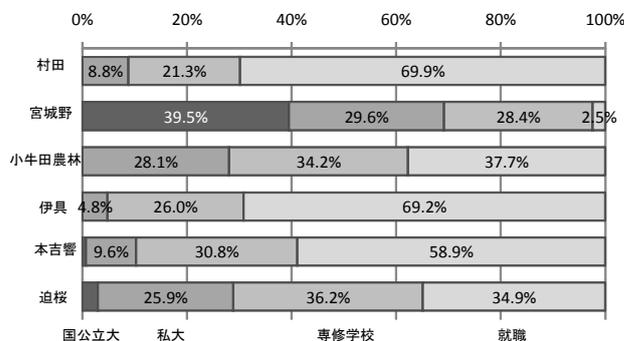
総合学科は、一人一人の生徒の個性を尊重した教育を推進する観点から、普通科における就職希望者や専門学科における進学希望者への対応が不十分になっていることなどの問題を踏まえ、これまでの普通科と専門学科の2学科の区分を見直し、生徒の学習の選択幅を拡大することができるよう、普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科として、創設している。

○総合学科の現状

＜総合学科高校の設置状況＞

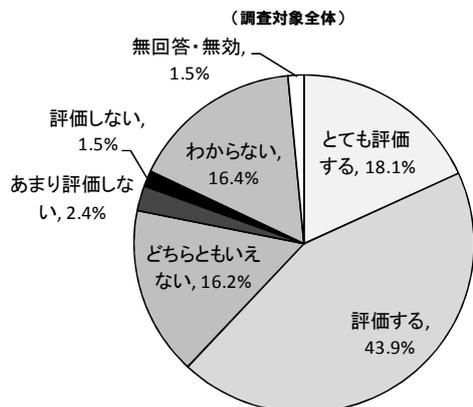
設置年度	地区	学校名	学科	課程	設置形態	学級規模 ()内は全体	系列	備考 (改編前学科・併置学科)
平成7年	南部	村田高校	総	全日制	学科改編	3学級	言語自然科学・介護福祉 商業実践・自動車	普通科・家政科・自動車科
平成7年	中部(北)	宮城野高校	総・普・専	全日制	新設	2学級 (7学級)	人文・理数・美術	普通科・美術科と併置
平成9年	北部(大崎)	小牛田農林高校	総・専	全日制	学科改編	3学級 (5学級)	自然科学・人文社会 情報ビジネス・健康福祉	農業科・地域経済科・林業科・農業土木科・農業技術科と併置
平成11年	南部	伊具高校	総	全日制	学科改編	4学級	農業・機械 情報・福祉	産業技術科・生活技術科 商業科
平成11年	東部(本吉)	本吉響高校	総	全日制	学科改編	4学級	進学教養・産業情報 人間環境・生活表現	普通科・産業技術科・家政科
平成13年	北部(栗原)	迫桜高校	総	全日制	栗原農業高 若柳高を統合	5学級	人文国際・自然科学・福祉教養・情報 科学・エンジニアリング・アグリビジネス	農業工学科・生活文化科 普通科
平成22年 予定	東部(石巻)	(河南高校)	総	全日制	学科改編	6学級		普通科・農業科

＜総合学科高校の生徒の進路状況 (H20.3)＞

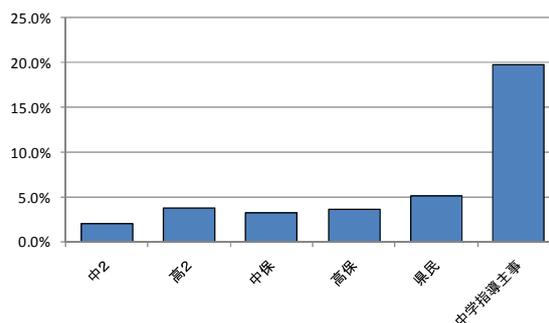


○総合学科に対する評価 (「高校教育に関する県民意識調査」結果より)

＜総合学科高校の設置に対する評価＞



＜調査対象別の「評価しない」・「あまり評価しない」の割合」の比較＞



<各評価の選択理由>

<「とても評価する」・「評価する」>

生徒 保護者 県民	自分の進路について真剣に考える機会だから。 自分が希望した授業が受けられるのは良いことだと思う。 いろいろな科目で学習できるのはいいと思うから。
中学 指導主事	選択能力のある生徒にとっては大変有意義である。 判断材料がないが、多様な学習ニーズに対する取組は素晴らしいと思う。 自分の興味によって学習すれば、効果や成果が上がると思う。

<「どちらともいえない」>

生徒 保護者 県民	色々な科目を択べる反面、特化した知識を身につけることができないので、どちらとも言えない。 選択の広さだけでなく、選択の中身も重要だとおもう。 本人まかせで先生方の指導が大変不足している
中学 指導主事	自分の将来を考えている生徒にとっては良いと思うが、そうでない生徒は単位修得さえ難しい。 制度としては魅力的だが、生徒が「選択」できるかどうかは疑問。 総合学科でも学校によって進学か就職のどちらかに重点が置かれている。

<「あまり評価しない」・「評価しない」>

生徒 保護者 県民	高校では、基礎学力を身につけるべきだと考えるから。 高校進学の時点で進学先で迷う生徒が入学して「自分だけのカリキュラム」が本当に作れるのか 高校生のレベルでは授業選択は難しいこと資格も中途半端になっていること
中学 指導主事	生徒が自らの個性を理解した上で適切な履修ができていないように感じない。 総合学科には、明確に目標をもって進学する生徒が少ない。 底辺校が総合学科に変わっただけで、普通科との明確な区別がつけにくい。

<「わからない」>

生徒 保護者 県民	身近に総合学科高校がないのでわからない 成果、効果の情報がない。 小学生の子どもがいるが、総合学科高校の情報が少ないため、判断できない。
中学 指導主事	評価できるほどの情報が伝わってきません。 現場や生徒の様子を見たことがないので。

○総合学科の課題

<p><前回審議会での総合学科にかかる意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○3年間で専門・普通双方の習得は難しいので総合学科こそ中高一貫校化すべきではないか。総合学科の設備充実の必要性からみても中高一貫校での実施がいいのではないか。(白幡(洋)委員) ○単位制を活用した総合学科と専門高校の組合せや専門高校への移行というのもあっていいのではないか。(白幡(洋)委員) ○総合学科は質の維持が重要(西山委員) ○高校を出て就職するなら総合学科がいいのではないか(渡辺委員) ○総合学科といっても結局は入ったときに目指した進路に落ち着いており、必ずしも進路の柔軟性があるとはいえない。 ○目的意識を持ってつくった総合学科と合併効果を狙って総合学科化した高校で差がつかろう。(荒井会長) ○総合学科の専門教育では、産業界のニーズには応えられない。(尾崎委員) ○総合学科としての在り方は各校それぞれ個性をもっており一概にいえないところがある。(北島委員) <p><参考> 「総合学科の今後の在り方について(報告)」平成12年1月20日 総合学科の今後の在り方に関する調査研究協力者会議より総合学科の課題部分を抜粋</p> <p>■進路について考える時間をもっと必要である。 総合学科で不満足な点として、「進路についてじっくりと考える時間をもっと必要である」ことを挙げる生徒が多い。 ※系列等の選択のタイミングが1年次の前半に設定されている場合が多い。</p> <p>■総合学科における学校運営にかかわる問題として、以下の点を教員が多く指摘している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育課程編成・実施について、「時間割編成が難しい」・「教員の配置が不十分である」こと ② 生徒指導について、「授業の出欠管理が難しい」こと ③ 進路指導について、「単位取得の容易そうな科目を選択する傾向がある」こと ④ 教員の業務について、「担当科目数が多い」・「校務分掌等、教科指導以外の仕事が多い」こと

2-2 新たな特色を持つ学校・学科

各県で取り組まれている高校改革では、今後の高校教育に求められる視点を盛り込んだ学校・学科の設置が進んでいる。

○課題解決・探求型の学習を重視した学科

設置学科・コース	区分	概要	学校名	設置年度	所在地
コズモサイエンス科	理数 国際 環境	外国語によるコミュニケーション能力の育成を図るとともに、国際的視野と科学的教養を身につけた人材を育成する。 英語については、専門教科「英語」の学校設定科目「総合コミュニケーション」において、情報発信型の英語コミュニケーション能力を養成する。 理科については、第1学年で基礎的分野を網羅した学校設定科目「 理数理科 」を設置し、 観察や実験を通して、自然に対する探究心を高め、総合的な自然観を身につけさせる。 また、第2学年では、理科4領域の中から3科目を選択し応用能力の育成を図り、希望者を対象に最先端の科学技術の学習や生物地学分野に係る野外観察を実施する。 理科・公民科・家庭科の合科的な科目として、学校設定科目「環境科学」を設置し、 環境問題の解決の道筋を論理的、創造的に考える能力を養う。	札幌開成高校	平成16年	札幌市
人間探究科	普通	人文系統の学習を深め、人間の文化や社会・行動等について、 探究する能力を養う学科 学習内容をベース・コア・オプション科目に分類し、基礎基本の充実、興味関心の深化、進路希望の実現に対応	堀川高校	平成11年度	京都市
サイエンスリサーチ科	理数	関西文化学術研究都市の地域性を生かした研究機関、大学との連携学習一けいはんな文化学術協会より、講演や生徒との交流（サイエンスカフェ）を高校にて実施。関西光学科学研究所「きつづ光学館」にて見学実習を行い、同研究所より講師を迎え「レーザーと光」についての講演を実施。上記以外の実習体験や講演も実施。 一大学は、京都大学、大阪大学、大阪市立大学等との連携を行う。 少人数講座と課題研究の取組 理数系の高等教育との連続性を重視した教育内容	南陽高校	平成18年度	京都府
文理総合科	その他	専門的かつ総合的な課題解決型の学習、大学の教育に接続する学習を複数の大学との連携も図りながら進め、 科学的思考力、英語の高い運用能力を有する、グローバル社会で活躍出来るリーダー的人材を育成 を図る学科	山城高校	平成19年度	京都府
文理科学科	その他	幅広い科学的思考力、探求心、課題解決力、表現力をバランスよく育成 することを目指している。大学進学を目指した学力伸長コースの中でも更に難関大学への合格を目指した進学に特化した専門学科。学校設定教科「みらい学」の設置し、学力だけではなく自らの進路を開拓していく能力も養成する	福知山高校	平成19年度	京都府
エンタープライジング科	商業	これまでの商業科を発展的に解消し、 普通科・商業科の枠を超えた新たな専門学科 を、平成15年4月に開設。経済社会の国際化、情報化、ボーダレス化に対応し、グローバルな視点で自然現象や社会事象を考察する豊かな知識と独創的な発想力、積極果敢な行動力をもって、 21世紀をリードするに相応しい能力と態度を育成	西京高校	平成11年度	京都市

○複数の専門学科を学ぶことが出来る学科

設置学科・コース	区分	概要	学校名	設置年度	所在地
総合産業科	工業他	職業系高校の合併等により、これまでの高校の専門分野（農業、工業、水産、商業等）の枠を超えて、科学技術や産業等を幅広く学習 する学校を設置 科学技術と国際性の視点から見た産業を幅広く学習する。学習のまとまりとして6つの系と1つの分野を設置し、その中から生徒は自らの興味・関心や進路希望に応じて選択履修	神奈川総合産業高校	平成17年度	神奈川県
情報科学科	情報	総合選択制（農業・工業・家庭・情報） 情報技術、情報科学の2類型を設置 情報技術類型ではハードウェアを中心としたコンピュータ利用技術を、情報科学類型ではマルチメディアやネットワークの知識と技術を習得	鳥取湖陵高校	平成13年度	鳥取県
マルチメディア技術科	情報	総合選択制（工業・商業・家庭・情報） ネットワークシステムやマルチメディアに関する学習を行い、高度情報通信社会の諸問題を解決できる人材を育成	倉吉総合産業高校	平成15年度	岡山県

○キャリア教育を重視する学科

設置学科・コース	区分	概要	学校名	設置年度	所在地
キャリア探求科	その他	自分の意志で将来の職業を選ぶ力を付けるための専門科目である「キャリア探求学」を開設。 「ビジネス系」「情報系」「福祉系」を設け、民間企業、公務員、大学、短大、専門学校など多様な進路を目指す。	和気閑谷高校	平成17年度	岡山県
未来創造科	普通	普通科と商業科の枠を超えた特色ある普通系専門学科で、実社会との関わりを積極的に求めた教育を展開し、生涯を通じて主体的・積極的に生きる意欲や行動力を養う 多数の選択科目を開設し、進路目標に沿った系統的選択履修 「キャリア教育」を重視し、近い未来を自らの力で切り拓く力、激しく変化する社会に適應する力、実社会で役立つ力を育成する	倉敷鷺羽高校	平成17年度	岡山県
産業科	その他	キャリア教育を充実し、ものづくりから流通、販売までを総合的に学び社会に貢献する人材育成を行う 英語力とIT(情報技術)力育成を重視 インターンシップやデュアルシステムの就業体験をするなど地域・産業界との連携を強化 高大連携による大学講師の授業の受講や大学生の協力を得て土曜補習等を行う。	橘高校	平成19年度	東京都
システム工学科 キャリア実践コース	工業	確かな技術・知識と高い志をもった技術者の育成を目指す。 2ヶ月にわたる企業長期実習をはじめ、企業の持つ教育力を活かしたデュアルシステムを導入 社会人と接することで勤労観・モノづくり人としての責任・誇りを持たせ、将来の目標を考えさせる (特色ある専門科目) 地元企業の方々から京都の産業について学ぶ「京都ものづくり」 課題発見・解決型学習に取り組む「創造研求」 企業実習と進路探究を結びつけ、様々な企業や自分の適性について学習する「キャリア研究」	市立伏見工業高校	平成19年度	京都市
ビジネス創造科	商業	地元産業界と連携・協働した実践的な教育により、ビジネスリーダーとしての基本的な能力を身に付ける。 アドバンス、総合ビジネス、会計ビジネスの3類型を設置。	岡山東商業高校	平成18年度	岡山県

○特定の専門分野を深化させた学科(1)

設置学科・コース	区分	概要	学校名	設置年度	所在地
情報理数科	情報	新たな産業領域の形成に貢献できるような、高度情報通信社会を支える人材を育成 高度情報化社会に対応できる学校設定科目(「情報数理」「情報論理」「情報心理」「情報英語」)を設置 大学進学を念頭に置いた教育課程の編成	柏の葉高校	平成19年度	千葉県
数理工学科	工業	普通科目60~64単位、専門科目23~27単位。 数学・理科・英語の授業時間が充実しており、理系の大学への進学が有利。 1年次の工業技術基礎の授業で旋盤、パソコン、半田付け、化学実験等を体験。2年次から機械系、電気・情報系、化学系の3コースの中から専門科目を選択学習。	吉原工業高校	平成7年度	静岡県
食デザイン学科	家庭	食と食生活関連産業に関する専門的な知識と技術が習得できるような学習内容 となっている。 調理師免許が所得できるように教育課程が編成されている。 学科の枠を超えてホームルームが編成されており、他学科の専門科目を選択して履修することができる。 2年次の学校設定科目「インターンシップ」及び3年次の学校設定科目「産業総合実習」において、すべての生徒が体験的活動を体験することができる。	総合技術高等学校	平成17年度	広島県
福祉科	福祉	・2年次から、 介護福祉士国家試験受験資格取得を目指す「ケアワーカー」 類型と、より幅広いヒューマンサービスに対応する 「子ども福祉」 類型に分かれる ・介護技術の定着を図る指導の工夫として「岐阜各務野高校版介護技術検定」を実施している ・学校設定科目「子ども福祉実習」、「保育技術」により、保育園実習など現場実習の充実を図っている	岐阜各務野高校	平成17年度	岐阜県
教育みらい科	その他	将来教師になるために必要な資質能力を高校段階から育成する 人間や幼児・児童・生徒に関する適切な理解、人との関わり方に対する実践的能力、教職に関する正確な知識、適切な技能・態度の「現代社会」「理科総合B」「情報C」「家庭基礎」を専門教科「教育みらい学」に統合 「教育みらい学」とは、ワークショップ・体験活動、各界の第一線で活躍する特別講師を招聘した授業など、教師の育成に向けた特色ある取組を体系的に実施するものである。 (例「社会科学入門」「自然科学リテラシー」「言語技術」「人間学入門」「教育チャレンジ」など)	市立塔南高校	平成19年度	京都市

※文部科学省資料を編集し作成

○特定の専門分野を深化させた学科(2)

設置学科・コース	区分	概要	学校名	設置年度	所在地
くすり・バイオ科	工業	富山の地場産業であるくすりについての知識・技術の修得 医薬品とバイオテクノロジーとの関連性について学習 製薬工場・化学工場における品質管理・臨床検査に関する補助的卒業時に毒劇物取扱者の資格取得	富山北部高校	平成17年度	富山県
環境防災科	その他	阪神・淡路大震災の教訓を国内外に広く発信し、 災害と自然環境、社会環境を体験的に学ぶ 大学教授・民間企業・行政・ボランティア等による授業や、博物館・資料館・フィールドワーク等の校外学習の実施 インターネットやテレビ会議システムを活用した国内外の高校生との交流	舞子高校	平成14年度	兵庫県
表現科	その他	ワークショップや校外演習等を通して、生徒一人一人の個性を伸ばし、思考力を高め、豊かな心と感性、すぐれた表現力を身に付けることを目指した教育 を展開している ・ワークショップの開講～演劇理論(平田オリザ氏)・ボディランゲージ(庄崎隆志氏)・戯曲理論(小寺隆昭氏) ・校外演習～1年生が1泊2日で実施(田沢湖芸術村での体験学習等、秋田県立御所野学院高校との交流会も実施) ・卒業公演～7月八戸市公民館ホールにて行われた生徒の自主公演(演劇・自主制作ビデオ上演・ダンス) ・映像メディアの授業開講～授業で制作したビデオを尚美学院大学主催「高校生映像フェスティバル」に応募、最優秀賞受賞	八戸東高校	平成15年度	青森県
映像芸術科	芸術	・ 専門学科として学校設定教科「映像芸術」を設定し、多数の学校設定科目を置いている ・多数の映像専門家を社会人講師として招聘している ・ビデオ、CG、写真による作品制作を中心にして、映像を芸術的観点から学習している	芸術総合高校	平成12年度	埼玉県
舞台芸術科		・ 専門学科として学校設定教科「舞台芸術」を設定し、多数の学校設定科目を置いている ・多数の舞台専門家を社会人講師として招聘している ・舞台、演劇などの制作、発表を中心にして、舞台を芸術的観点から学習している			
地域創生コース	普通	・専門機関(大学、研究所、社寺)との連携・ボランティア団体との連携 ・学校外の学修の単位認定の充実…地域活動につながるボランティア活動等を単位認定	西の京高校	平成16年度	奈良県
環境科学科	その他	・ 自然環境や人間生活に関する実践的、体験的な学習を通して、環境の保全と創造に関する幅広い知識を身に付けるとともに、科学的思考力や問題解決能力を伸ばし、地域に積極的に貢献できる人材の育成を目指す ・科内に、生物環境、生活環境の2類型を設け、第2学年から各類型に分かれて学習できるようにする	高梁城南高校	平成20年度	岡山県

○多部制定時制課程・中高一貫教育校における総合学科の取組み

設置学科・コース	概要	学校名	設置年度	所在地
総合学科(定時制)	・ 新設の中学校と、市立定時制工業高等学校と商業高等学校を廃止して新設した定時制総合学科高等学校を併設 ・中学校:選択教科の充実、シティキャンパスデイの設定(土曜日)、 ・外国語教育の重視 ・高等学校:国際文化、情報科学など4系列を設置、伝統文化や技術等に関連した自由選択科目の開設	岡山後楽館中学校 岡山後楽館高等学校	平成11年度	岡山市
総合学科(定時制)	・I部(午前)、II部(午後)、III部(夜間)の三部制で自分の学習スタイルにあった部を選んで入学できる ・「福祉」、「ビジネス」、「国際教養」、「自然科学」の4つの科目群を設定し、それぞれの特徴に合わせた総合選択科目の設定 ・進路や興味関心に合わせて選択できる自由選択科目の開講 ・他部履修を利用することによって3年間で卒業することも可能 ・2学期制を実施	戸田翔陽高校	平成17年度	埼玉県
総合学科	・新設の高等学校に新設の中学校を併設 ・ものづくり、スポーツ、言語、芸術など、 早くから興味・関心の現れやすい分野の才能を伸ばす。高等学校には演劇科及び食物文化科を併設	咲くやこの花中学校 咲くやこの花高校	平成20年度	大阪市